

JAPIO YEAR BOOK 2026

発行にあたって



一般財団法人日本特許情報機構
理事長

近藤 賢二

JAPIO YEAR BOOK を手にしていただき、誠にありがとうございます。JAPIO YEAR BOOK は、2005 年の創刊以来、20 年以上にわたって知財情報に関する施策や取組、機械翻訳や特許検索等のテーマを中心に、各界第一線でご活躍の皆様からご寄稿いただくとともに、関連するシステムとサービスの情報を併せてご紹介する「年誌」として、発行を重ねてまいりました。今年も、特許庁、独立行政法人工業所有権情報・研修館、賛助会員、評議員はじめ関係各位の皆様のご支援を賜りつつ、JAPIO YEAR BOOK 2026 を発行することができましたことに心より厚くお礼申し上げます。

さて、今回の特集テーマは、「生成 AI 時代の特許翻訳」です。生成 AI の急速な進展により、その位置付けは、業務への適用可能性を試行的に検証する段階から、実務で利用できる段階へと移行しています。特許翻訳の分野においても、こうした変化は顕著であり、生成 AI の導入と活用が急速に進みつつあります。このような環境の変化の中で、知財を取り巻く環境はどのように変化しているのか？ 本特集では、特許翻訳における研究や具体的な活用事例を手がかりに、知財現場での生成 AI の活用状況や、研究動向について、最新の情報を皆様にお届けいたします。

激変する世界において、新しいビジネスを生み出し、経済を維持・発展させていくためには、これまで以上にイノベーションが求められる時代となっています。イノベーションの創出には世界的規模での知財情報の分析と活用が必要不可欠であります。本誌に掲載された記事や情報が、知財情報等の更なる活用に向け、時代に先んじていくための一助となれば幸いです。

知財情報への期待が一層高まる中、産業財産権に関する質の高い情報を提供することにより経済・社会の発展に貢献するという当財団の経営理念の下で、これまで以上に皆様のご期待にお応えすべく、最善を尽くして参ります。引き続き皆様の倍旧のご支援とご指導をいただけますようお願い申し上げ、冒頭のご挨拶とします。

2026 年 9 月 7 日